

XAMPP のインストールと設定

Ver 1.3

Seiichi Nukayama

2023 年 9 月 25 日

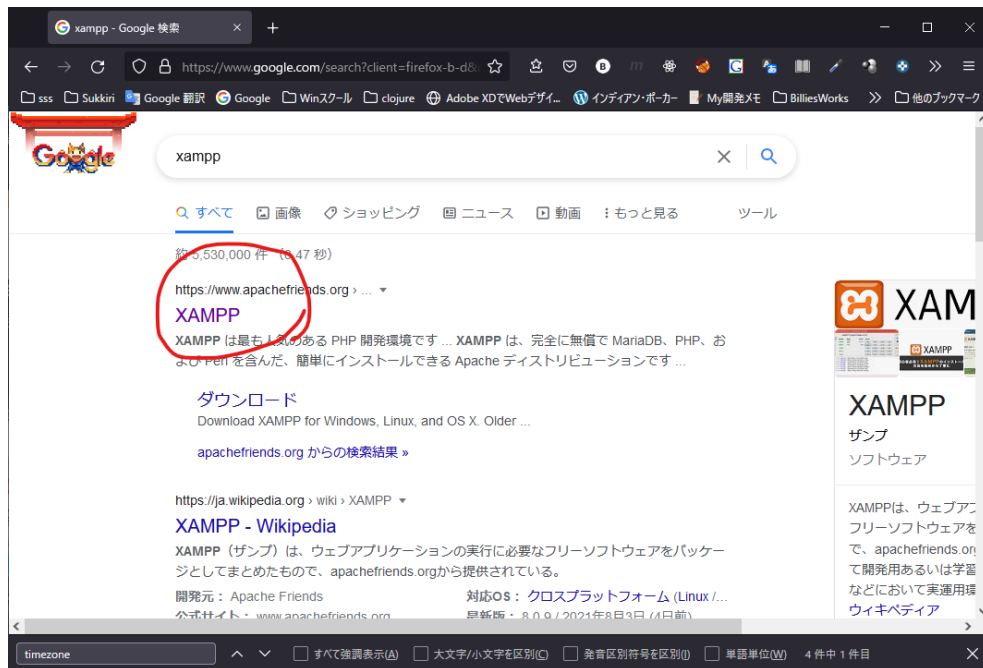
目次

1	XAMPP のダウンロードとインストール	1
1.1	ダウンロード	1
1.2	インストール	2
1.3	インストール後のメニューの設定と起動	5
1.4	管理者ユーザーで実行できるようにする	6
2	XAMPP の設定	8
2.1	TeraPad の登録	8
2.2	php.ini の設定	10
2.3	余談 —— mbstring の設定	12
3	環境変数への登録	12
3.1	php を環境変数 Path に登録する	12
3.2	mysql を環境変数 Path に登録する	17
4	IIS の動作を止める	17

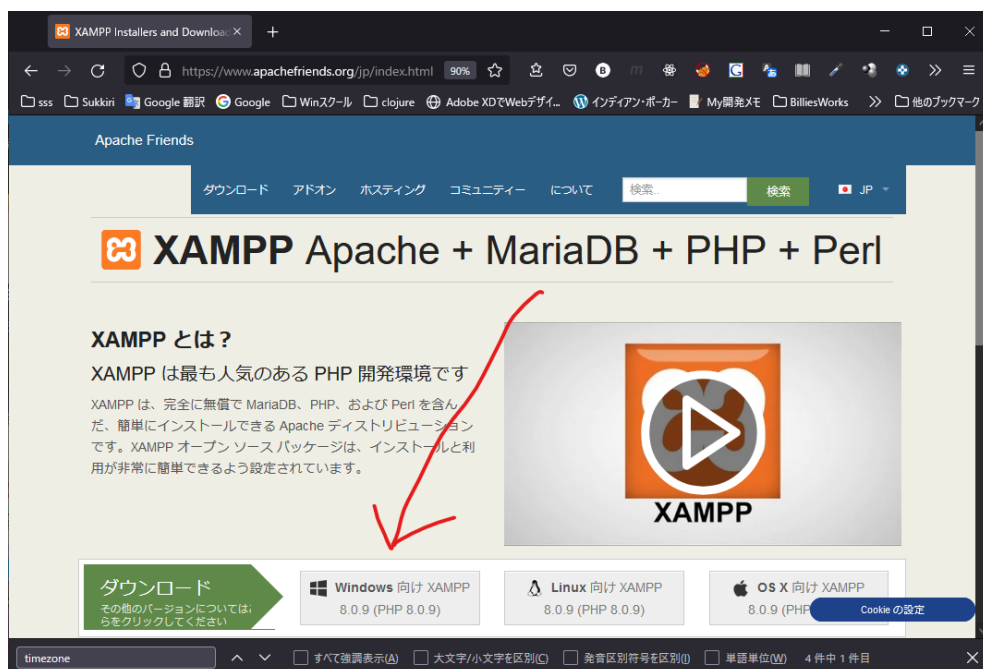
1 XAMPP のダウンロードとインストール

1.1 ダウンロード

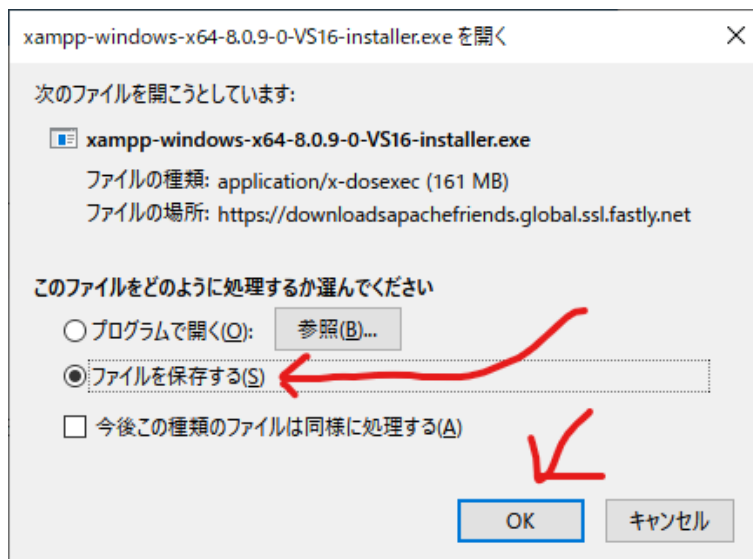
google などで、“xampp” で検索。



XAMPP のページが開くので、“Windows 版” をダウンロードする。



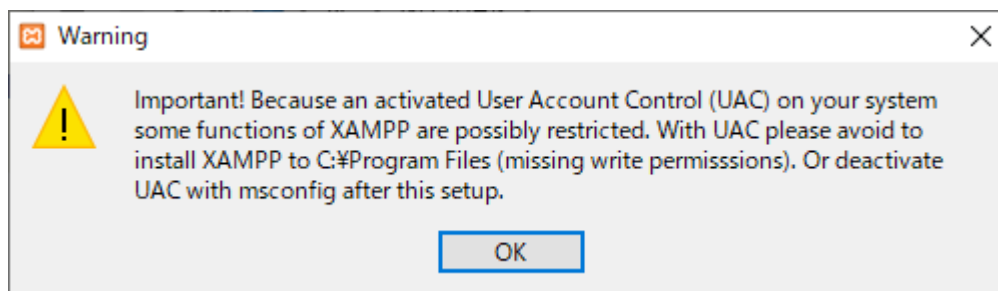
ファイルを保存する。“ダウンロード”フォルダに保存される。



1.2 インストール

“ダウンロード”フォルダの“xampp-windows-x64-8.0.9-0-VS16-install.exe”をダブルクリックしてインストールを実行する。

が Windows の変更を許可しますか？ みたいなことが表示されたら、“はい”を選択する。
次に英語で “Warning” が表示される。



Google 翻訳

重要！ システムでアクティブ化されたユーザーアカウント制御（UAC）が原因で、XAMPP の一部の機能が制限されている可能性があります。

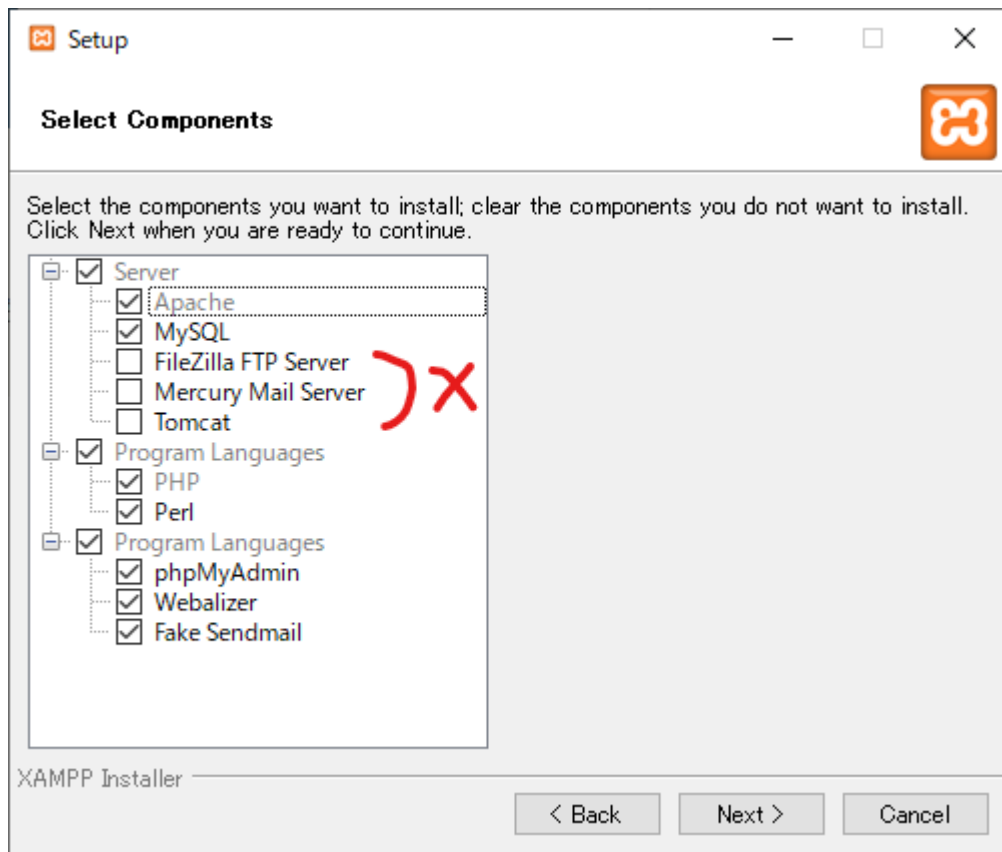
UAC では、XAMPP を C:\Program Files にインストールしないでください（書き込み権限がありません）。

または、この設定後に msconfig を使用して UAC を非アクティブ化します。

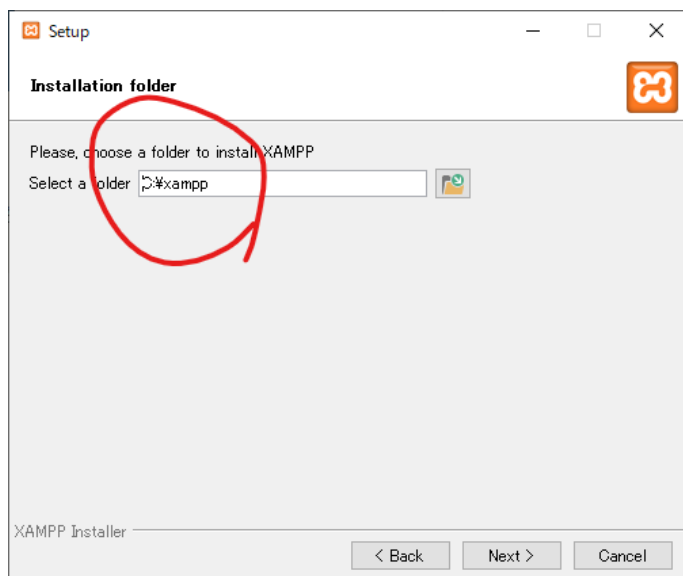
C:\Program Files にはインストールしないから、大丈夫。

次は、コンポーネントの選択画面である。

既定値では、すべてのコンポーネントが選択されているが、“FileZilla” と “Merucry” と “Tomcat” はいらない。インストールしても、使うことはまずない。

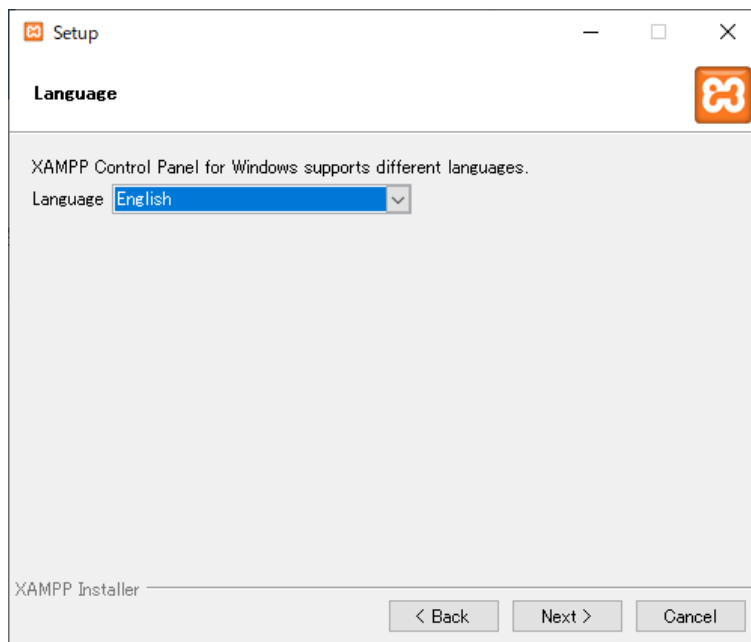


インストール先の確認画面である。

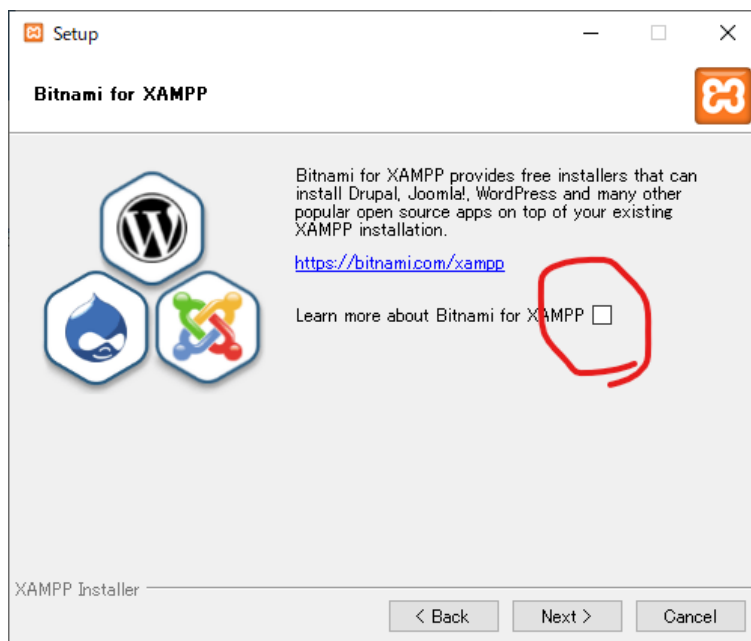


C:\xampp にインストールされる。(覚えておく)

次は、XAMPP Control Panel ではどの言語を使うかを選択できる。が、日本語はない。



次の画面では、チェックをはずすが、これはチェックがはいったままでもかまわない。Bitnami for XAMPP についての情報へのリンクをつくるかどうかを尋ねているだけである。

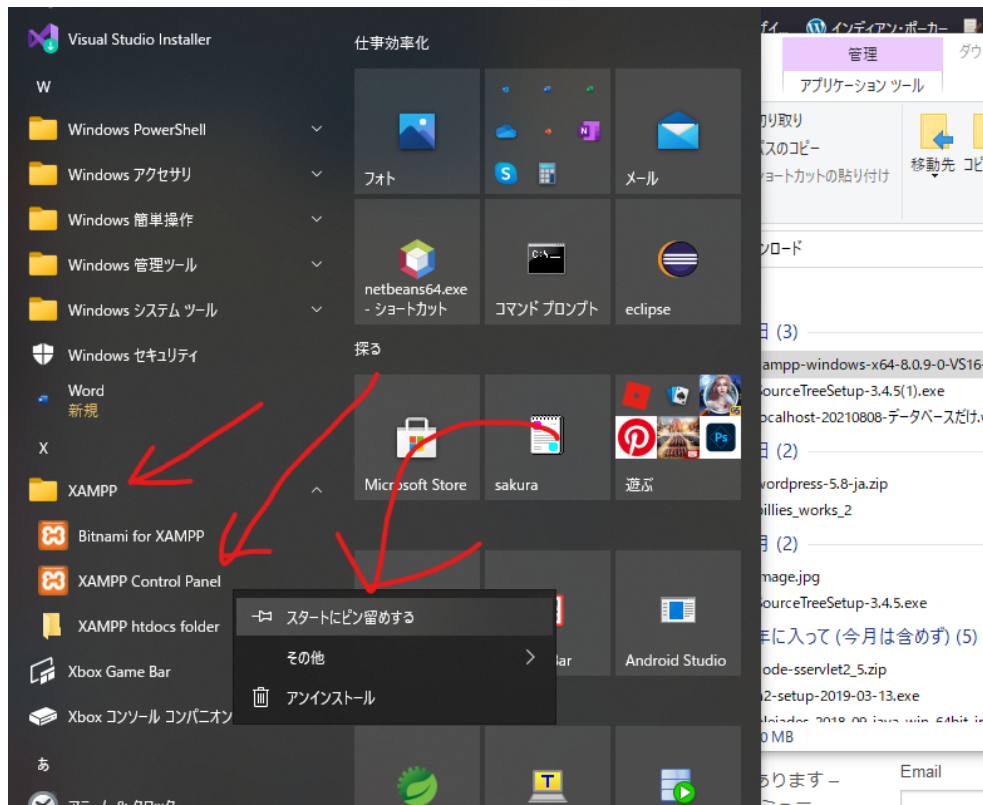


さて、これでインストールが実行される。しばらくかかる。

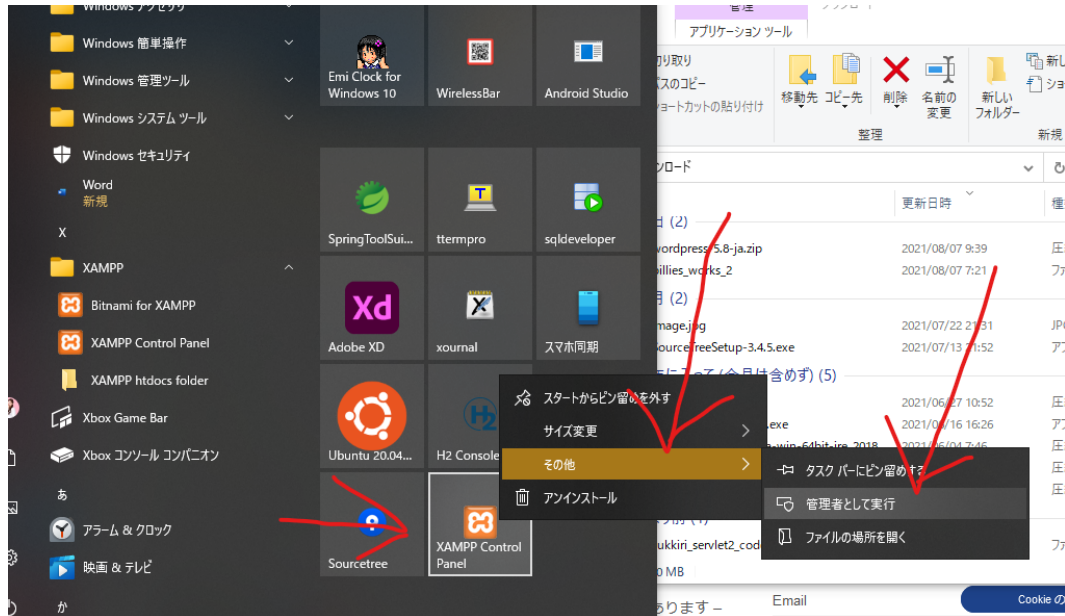
1.3 インストール後のメニューの設定と起動

インストールが終了すると、スタートメニューに XAMPP のメニューができています。

XAMPP Control Panel の項目を右クリックして、”スタートにピン留めする”をクリックして、スタートパネルから呼び出せるようにしておく。

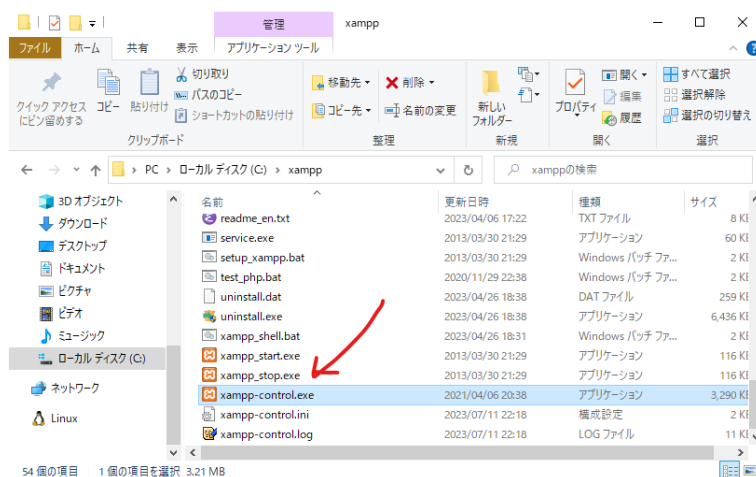


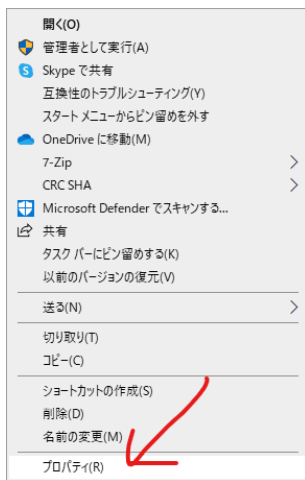
インストール直後の状態では、XAMPP コントロールパネルを起動するときは、“管理者として実行”を
する必要がある。右クリックして、“その他” — “管理者として実行” を選択する。



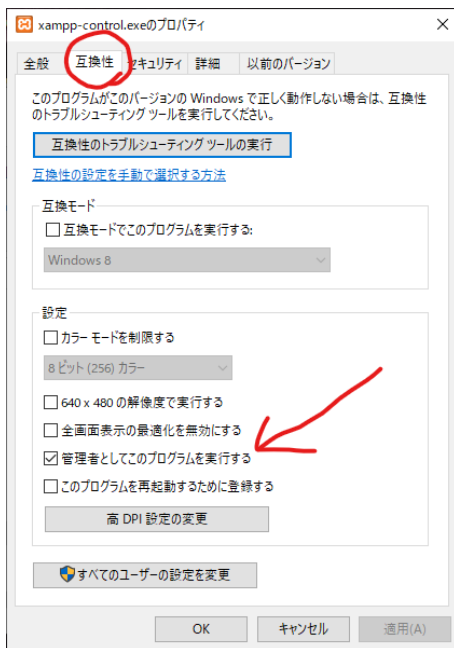
1.4 管理者ユーザーで実行できるようにする

右クリックしなくても、XAMPP コントロールパネルを管理者ユーザーで起動できるようにする。
C:\xampp フォルダを開き、“xampp-control.exe” を右クリックして、“プロパティ” を選択する。





“xampp-control.exe のプロパティ” のダイアログが開くので、“互換性” タブを選択する。

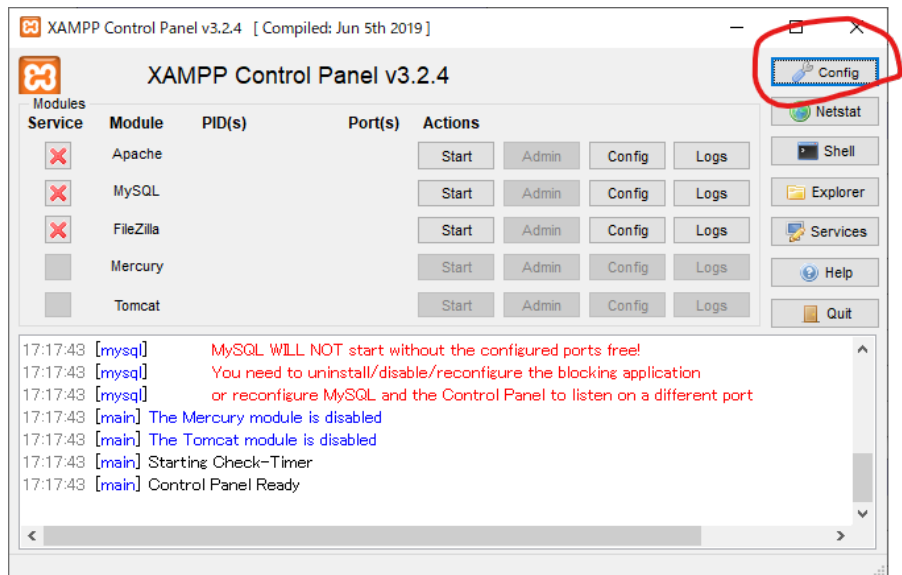


開いた“互換性”タブで、“管理者としてこのプログラムを実行する”にチェックを入れて“OK”とする。
開いたダイアログで、Everyone が選択されているのを確認して、“書き込み”欄にチェックを入れて“OK”とする。

2 XAMPP の設定

2.1 TeraPad の登録

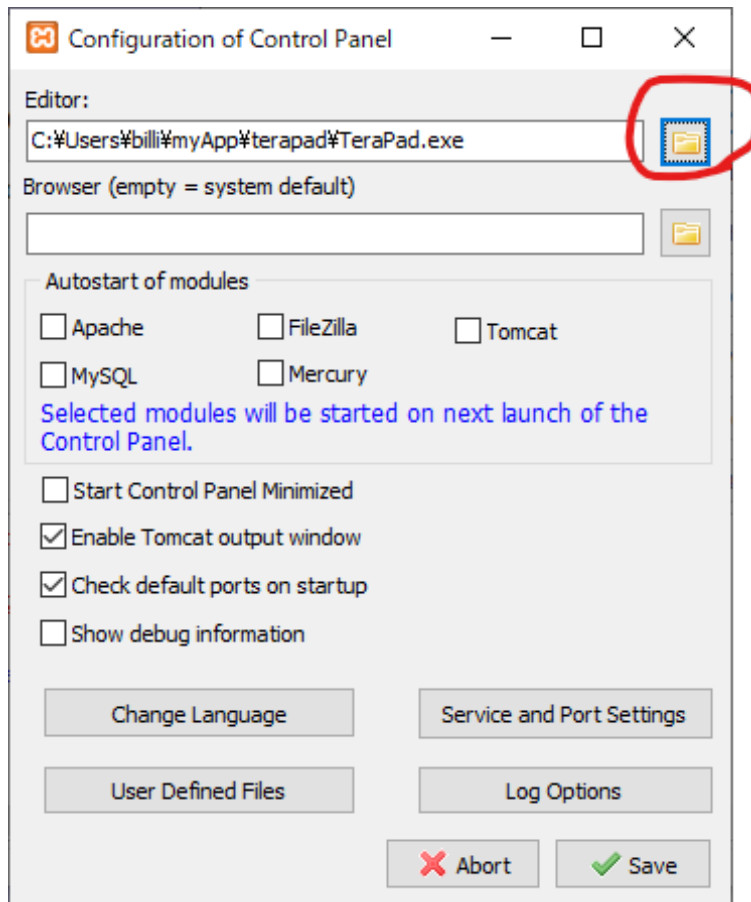
”XAMPP コントロールパネル” が起動したら、まず、右上の “Config” をクリックする。



次に開いた窓で、”Editor” の設定を変更する。

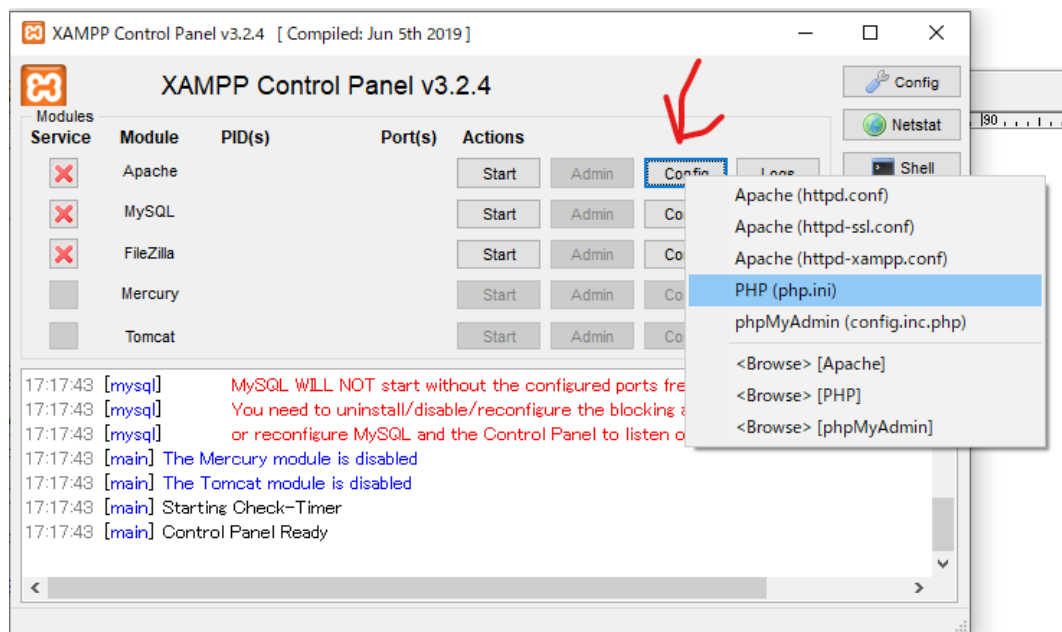
メモ帳 が初期値になっているので、それを “TeraPad” に変更する。

C:\Program Files (x86)\terapad\TeraPad.exe を指定する。

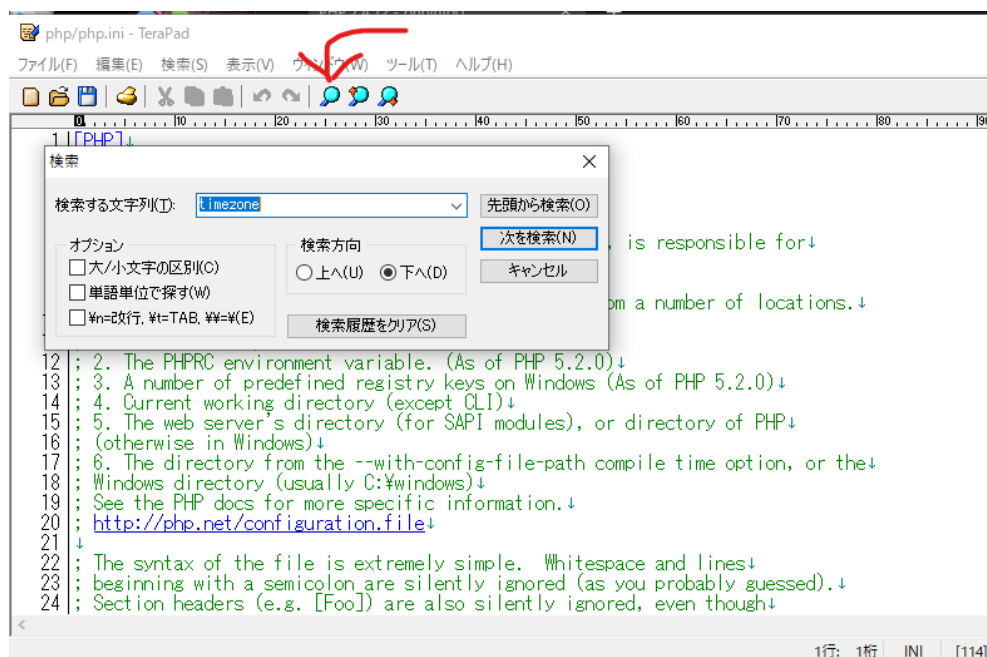


2.2 php.ini の設定

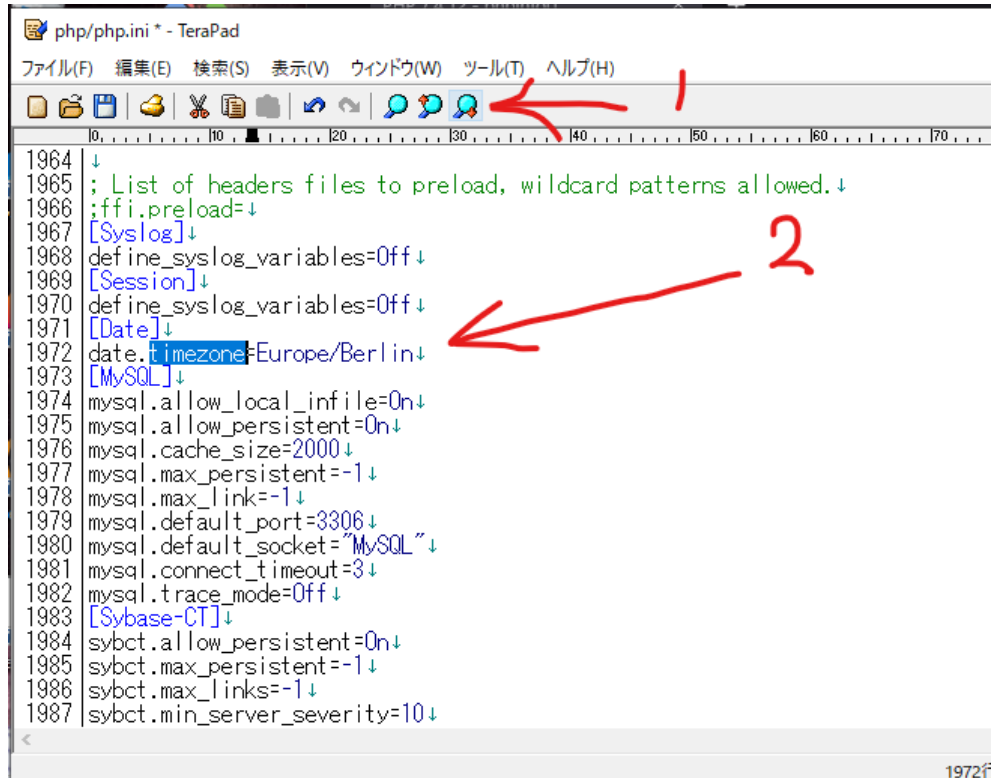
XAMPP コントロールパネルの "Apache" の行の "Config" をクリックして、表示されたサブメニューから PHP (php.ini) を選択する。



php.ini が TeraPad で開くので、上の虫メガネの左端のアイコンをクリックして、出てきたウィンドウで、timezone と入力して、“先頭から検索” をクリックする。

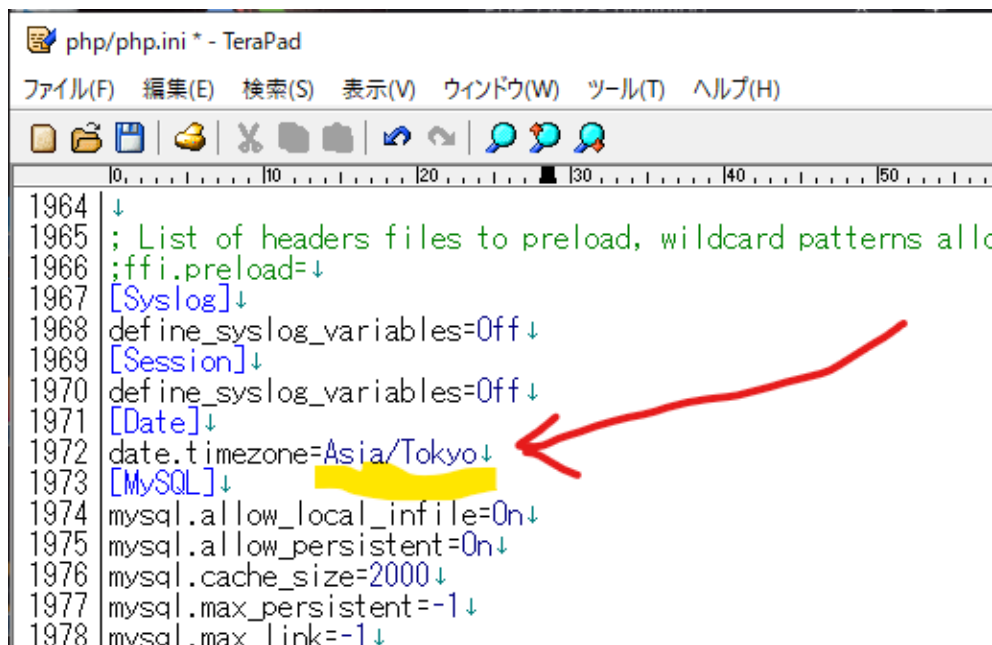


上の虫メガネの右端のアイコンを 2 回 あるいは 3 回 クリックすると、1972 行目あたりに date.timezone=Europe/Berlin という行が見つかる。



```
php/php.ini * - TeraPad
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) ウィンドウ(W) ツール(T) ヘルプ(H)
10, 20, 30, 40, 50, 60, 70
1964 ↓
1965 ; List of headers files to preload, wildcard patterns allowed.↓
1966 ;ffi.preload=↓
1967 [Syslog]↓
1968 define_syslog_variables=Off↓
1969 [Session]↓
1970 define_syslog_variables=Off↓
1971 [Date]↓
1972 date.timezone=Europe/Berlin↓
1973 [MySQL]↓
1974 mysql.allow_local_infile=On↓
1975 mysql.allow_persistent=On↓
1976 mysql.cache_size=2000↓
1977 mysql.max_persistent=-1↓
1978 mysql.max_link=-1↓
1979 mysql.default_port=3306↓
1980 mysql.default_socket="MySQL"↓
1981 mysql.connect_timeout=3↓
1982 mysql.trace_mode=Off↓
1983 [Sybase-CT]↓
1984 sybct.allow_persistent=On↓
1985 sybct.max_persistent=-1↓
1986 sybct.max_links=-1↓
1987 sybct.min_server_severity=10↓
1972f
```

その Europe/Berlin を Asia/Tokyo に変更する。



```
php/php.ini * - TeraPad
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) ウィンドウ(W) ツール(T) ヘルプ(H)
10, 20, 30, 40, 50
1964 ↓
1965 ; List of headers files to preload, wildcard patterns allc
1966 ;ffi.preload=↓
1967 [Syslog]↓
1968 define_syslog_variables=Off↓
1969 [Session]↓
1970 define_syslog_variables=Off↓
1971 [Date]↓
1972 date.timezone=Asia/Tokyo↓
1973 [MySQL]↓
1974 mysql.allow_local_infile=On↓
1975 mysql.allow_persistent=On↓
1976 mysql.cache_size=2000↓
1977 mysql.max_persistent=-1↓
1978 mvsql.max link=-1↓
```

これで、php.ini の設定は終了である。

2.3 余談 —— mbstring の設定

『PHP ノート』(p.25)に載っている mbstring の設定は、PHP5.6 以降 (だったかな) は不要 (非推奨) である。現在では、timezone の設定だけでいける。

<https://www.php.net/manual/ja/mbstring.configuration.php>

3 環境変数への登録

3.1 php を環境変数 Path に登録する

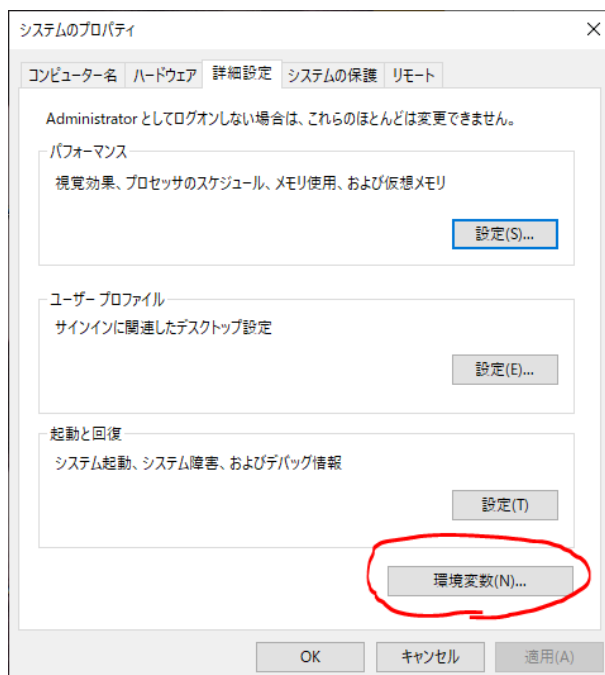
3.1.1 システム環境変数の編集

システム環境変数の PATH に、php.exe のある場所を登録する。

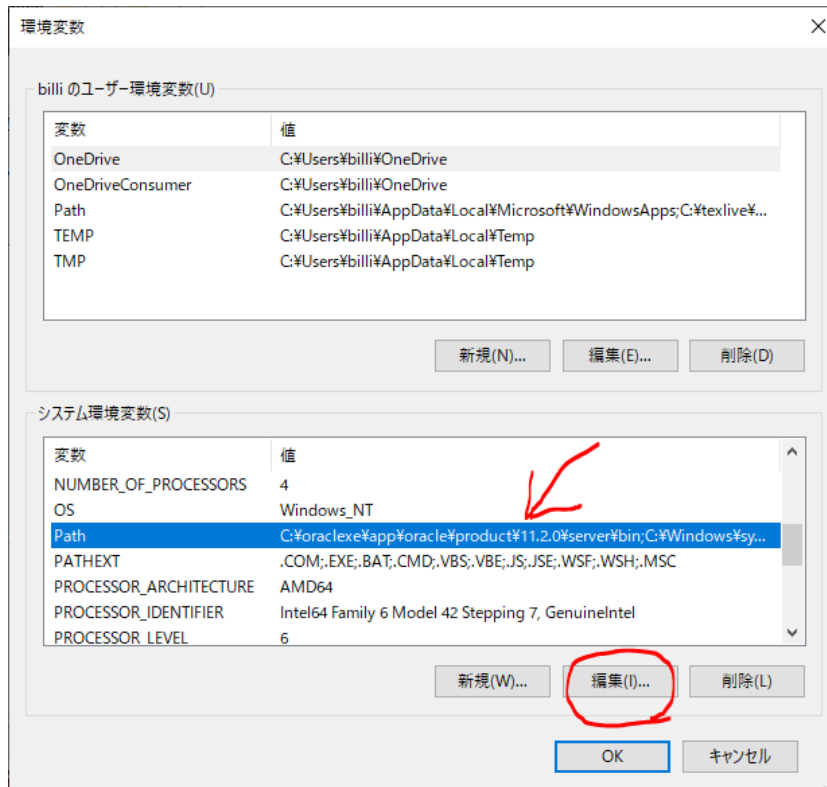
スタートボタン右の 虫メガネ に、”システム” と入力し、表示された候補から”システム環境変数の編集”を選択する。



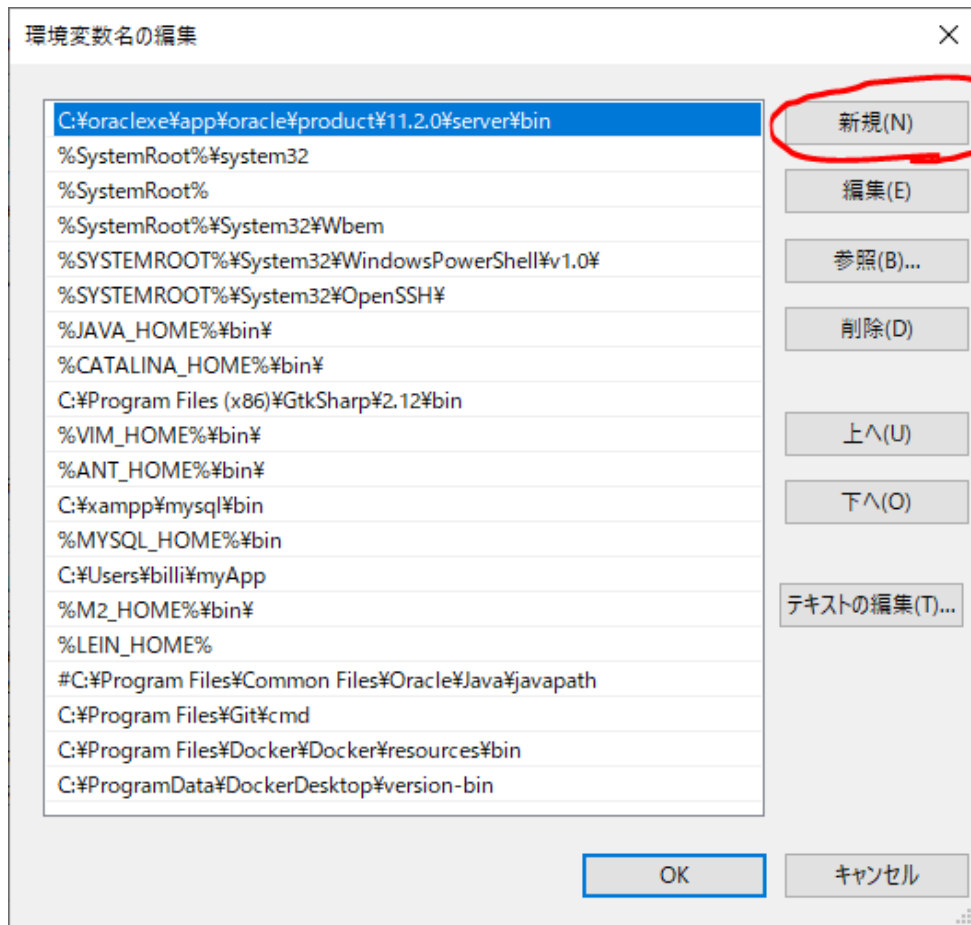
開いたウィンドウで、”環境変数”をクリックする。



開いたウィンドウで、下の“システム環境変数”の”Path”を選択する。
そして、下の”編集”をクリックする。



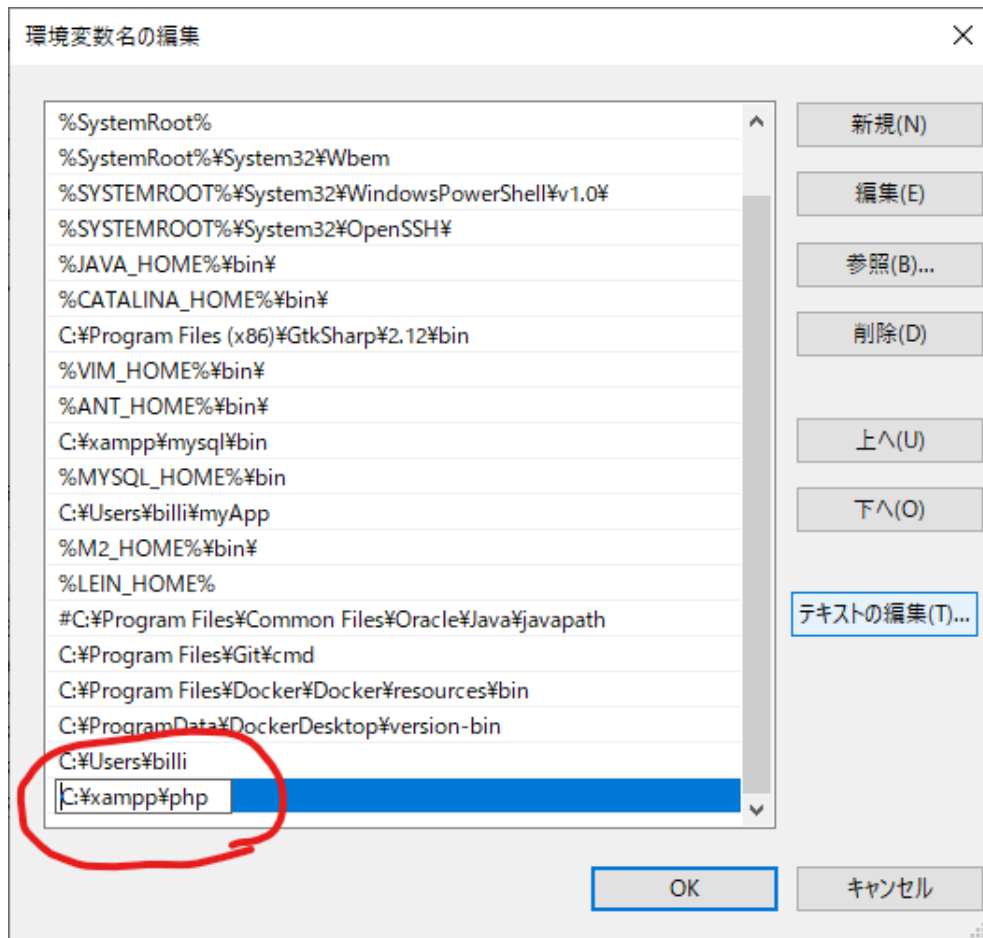
”環境変数名の編集”画面で、”新規”を選択する。



空欄の項目ができるので、そこに

C:\xampp\php

と、入力する。



あとは、“OK” をクリックして閉じていく。“x” や “キャンセル” をクリックすると、設定が反映されない。必ず “OK” をクリックする。

3.1.2 確認

もし、今、コマンドプロンプトの黒い画面が開いていたら、いったん閉じる。

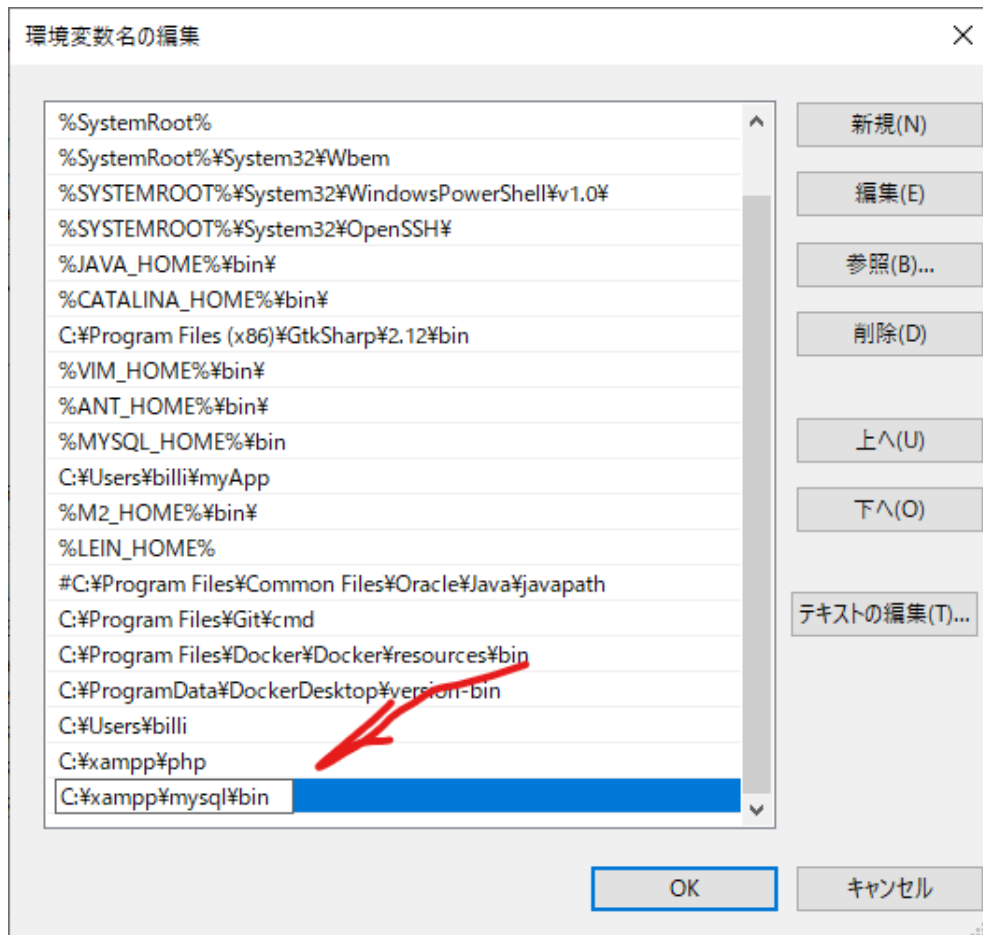
それから、コマンドプロンプトを開いて、以下のコマンドを入力する。

```
> php -v
```

PHP のバージョンが表示されれば成功である。

3.2 mysql を環境変数 Path に登録する

php のときと同様にして、mysql を環境変数 Path に登録する。
登録するパスは C:\xampp\mysql\bin である。



確認は、コマンドプロンプトを開きなおしてから、以下を入力する。

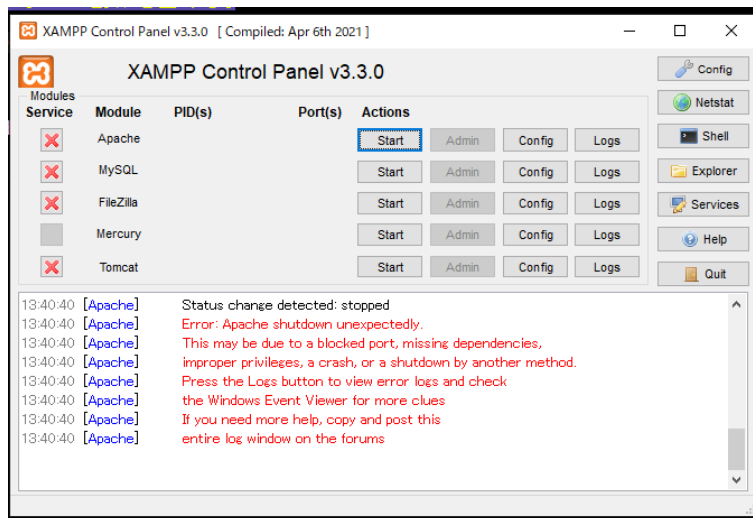
```
> mysql --version
```

-- は ハイフン 2 つ

mysql (MariaDB) のバージョンが表示される。

4 IIS の動作を止める

XAMPP のコントロールパネルで Apache を起動しようと Start ボタンをクリックしても、Apache が起動しないことがある。

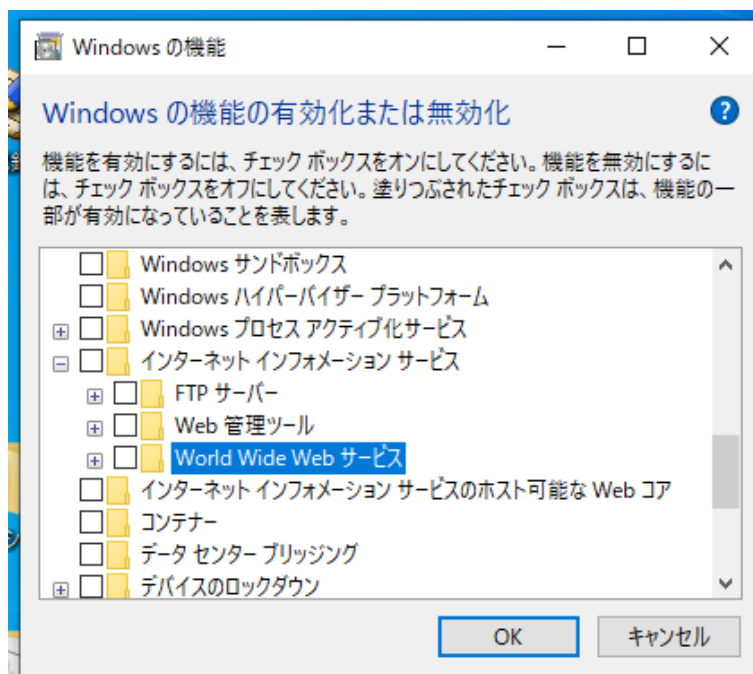


これは、Apache が使用する 80 番と 443 番ポートが、すでに他のアプリによって使用されているためかもしれない。

Windows のタスクバーの検索で、“Windows の機能の有効化または無効化”を検索する。

すると、以下のようなダイアログが表示されるので、“インターネット・インフォメーション・サービス”の項目を試みる。

黒くなっていたら、その”+” をクリックして展開し、“World Wide Web サービス”の黒をクリックして白くする。そして、OK とする。



すると、インターネット・インフォメーション・サービスを停止できるので、80 番ポート、443 番ポートが開放されるので、Apache が起動できる。